

原子力安全推進協会 (JANSI) の活動について

2014年3月14日

原子力安全推進協会
代表 松浦 祥次郎

Pursue the world's highest level of safety
~ Untiring Pursuit of the Highest Standards of Excellence ~

一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute



1. はじめに

- JANSIは平成24年11月15日発足。
- INPOを参考に安全性と信頼性の向上に取り組む。
- JANSIは「5ヵ年計画(2013～2017年)」を策定。
- 遅くとも5年後までにすべての活動を本格的な軌道に乗せる。



2. ミッションとビジョン

ミッション

日本の原子力産業界における、世界最高水準の安全性追求

～ たゆまぬエクセレンスの追及 ～

ビジョン

原子力施設の安全性向上対策と施設運営を継続的に評価する。
原子力安全における基準となるエクセレンスを明確化し、事業者に提示する。

事業者エクセレンスを求めると同時に、自らにもエクセレンスを求める。



3. 運営の基本

JANSI:事業者の自主規制、自主改善組織

独立性の堅持

国際知見の活用、見識の蓄積等による技術力の向上、
人材(プロパー率:目標70%)・人事・予算の独立

強い権限

原子力施設の停止等を勧告できる権限を有する

情報の共有化

事業者情報へのフリーアクセス

確認

CEOとの意識の共有

CEO会議での共有
活動へのCEO直接関与

協働の原則等

事業者の協力

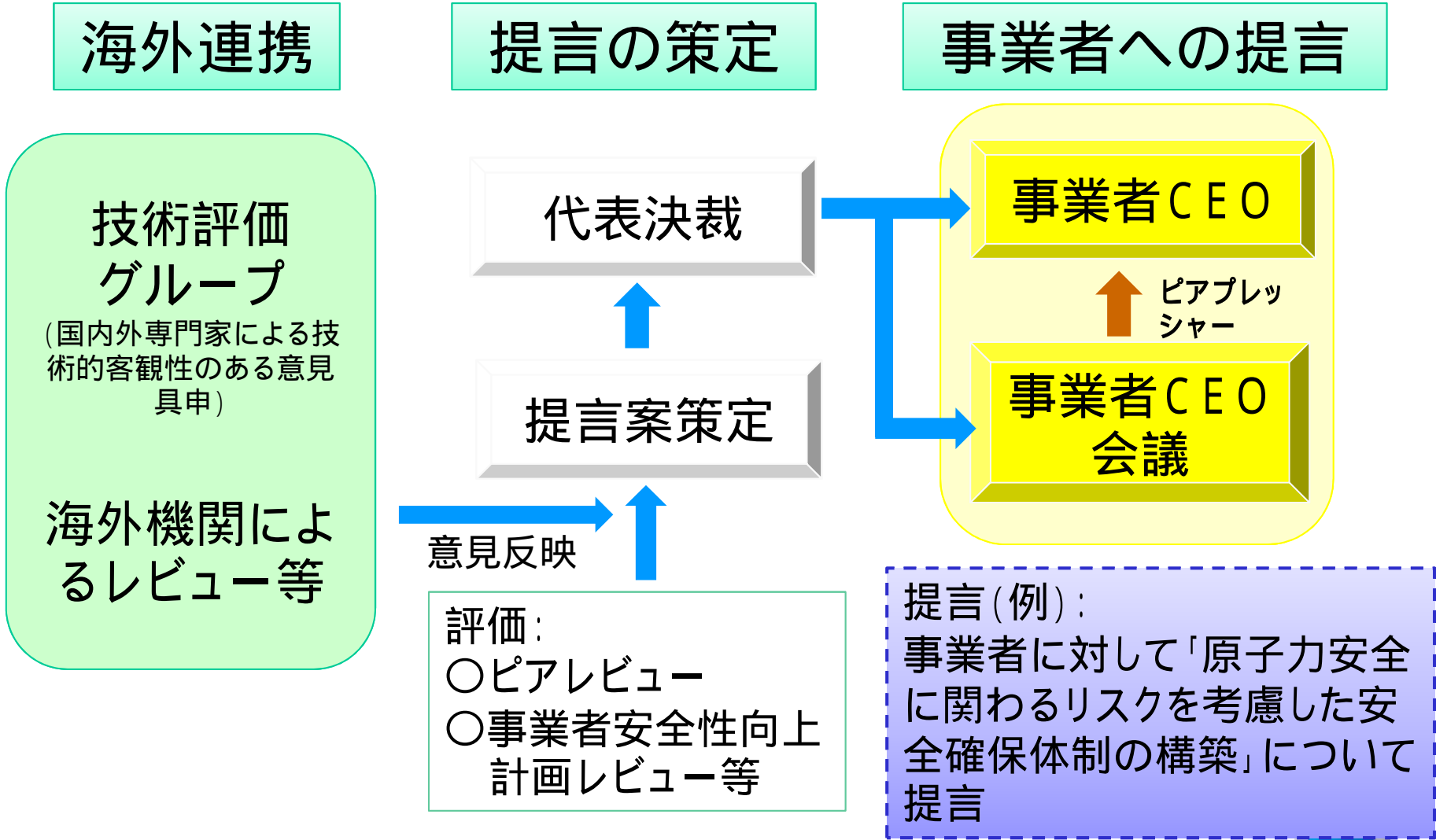
協力の明文化

確認

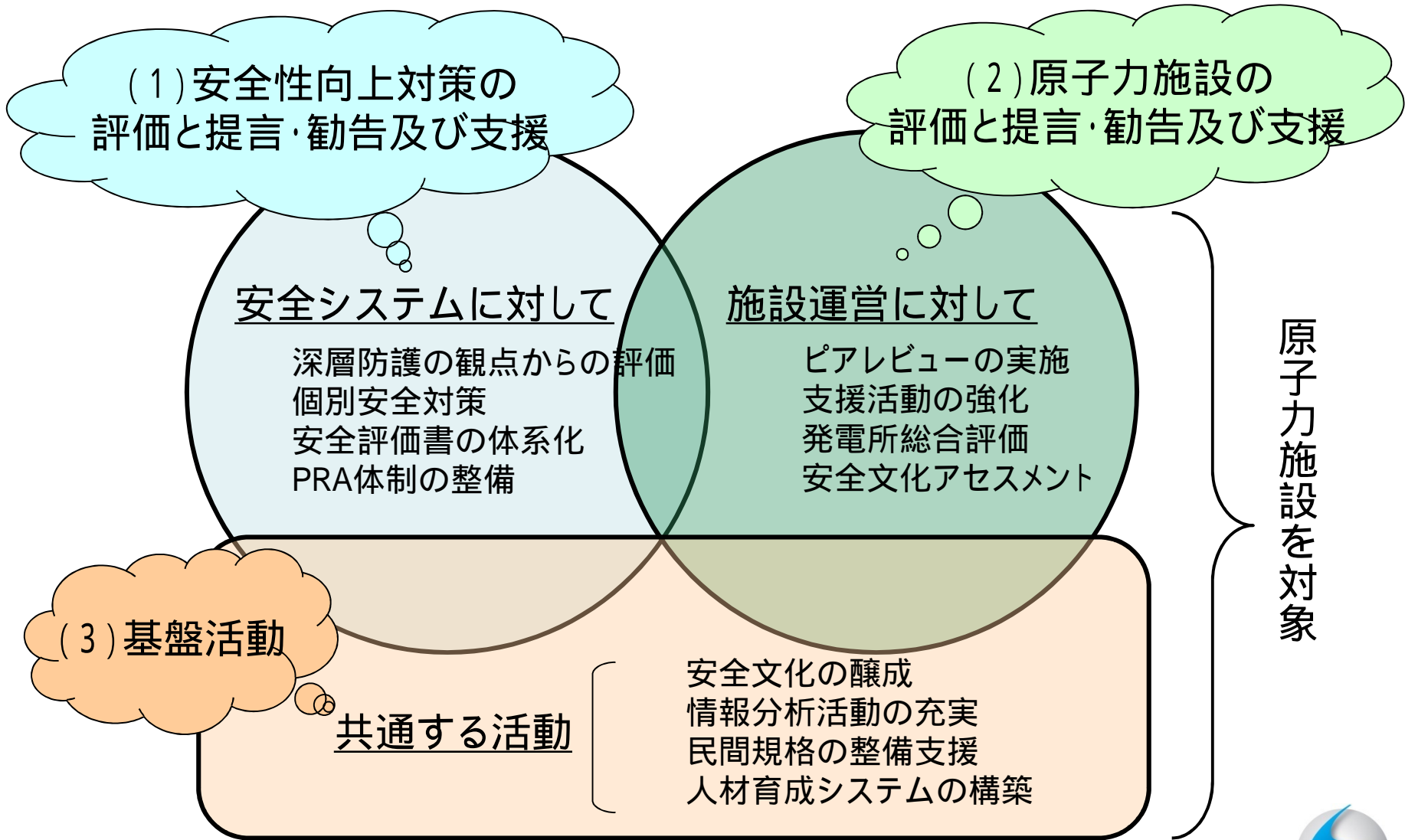
事業者CEO



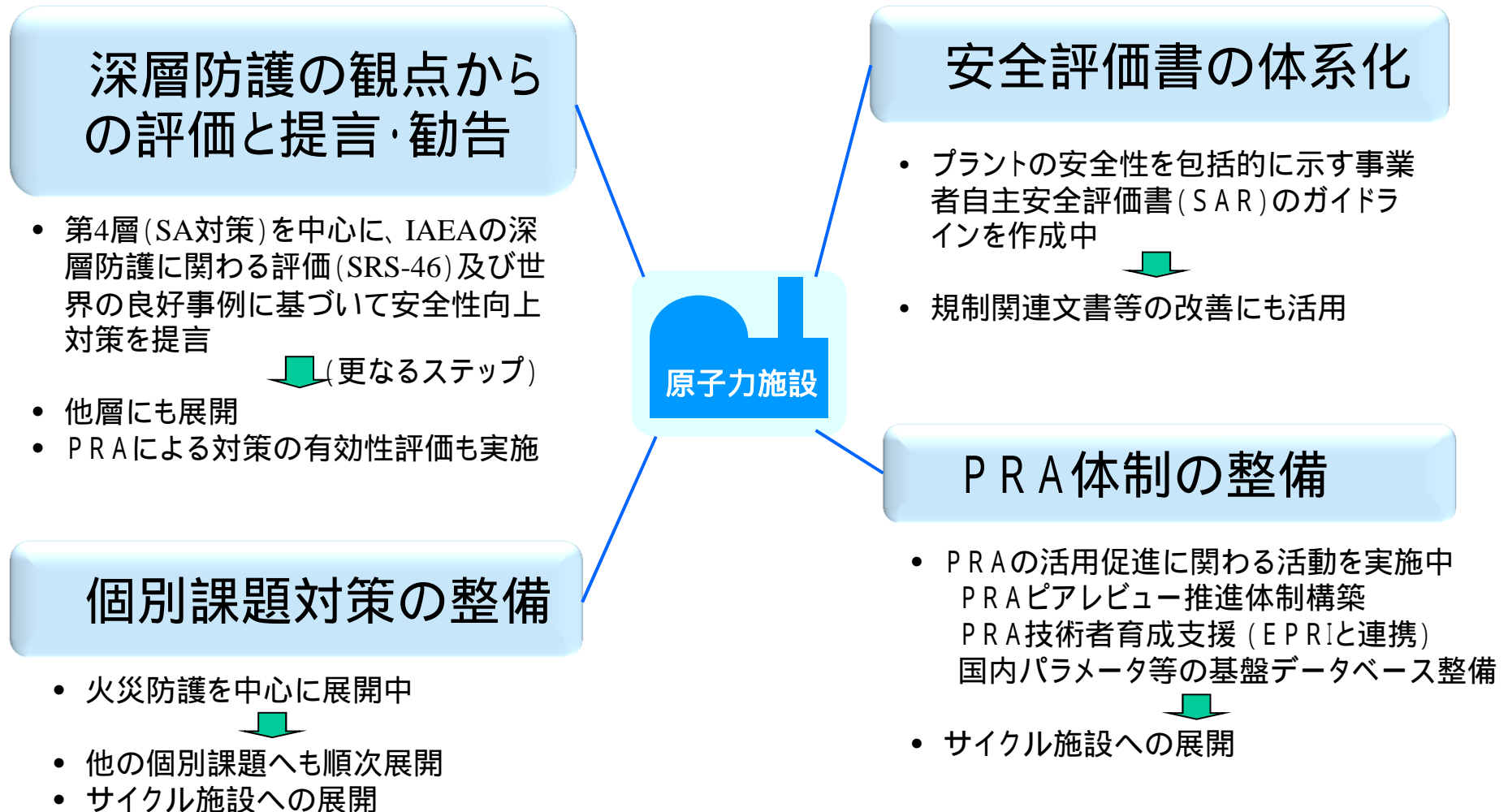
4. ミッション達成の仕組み



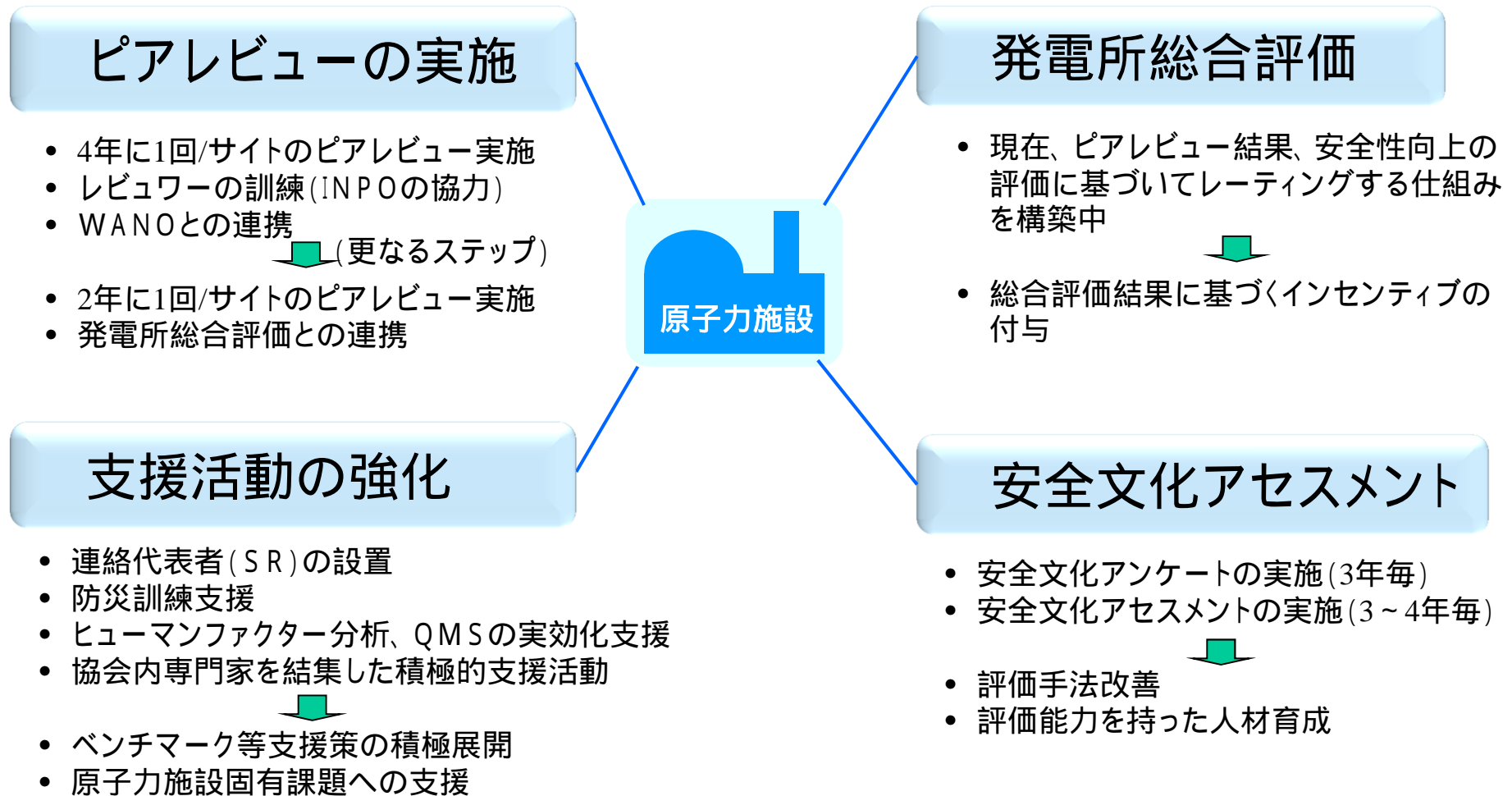
5. 主要な活動



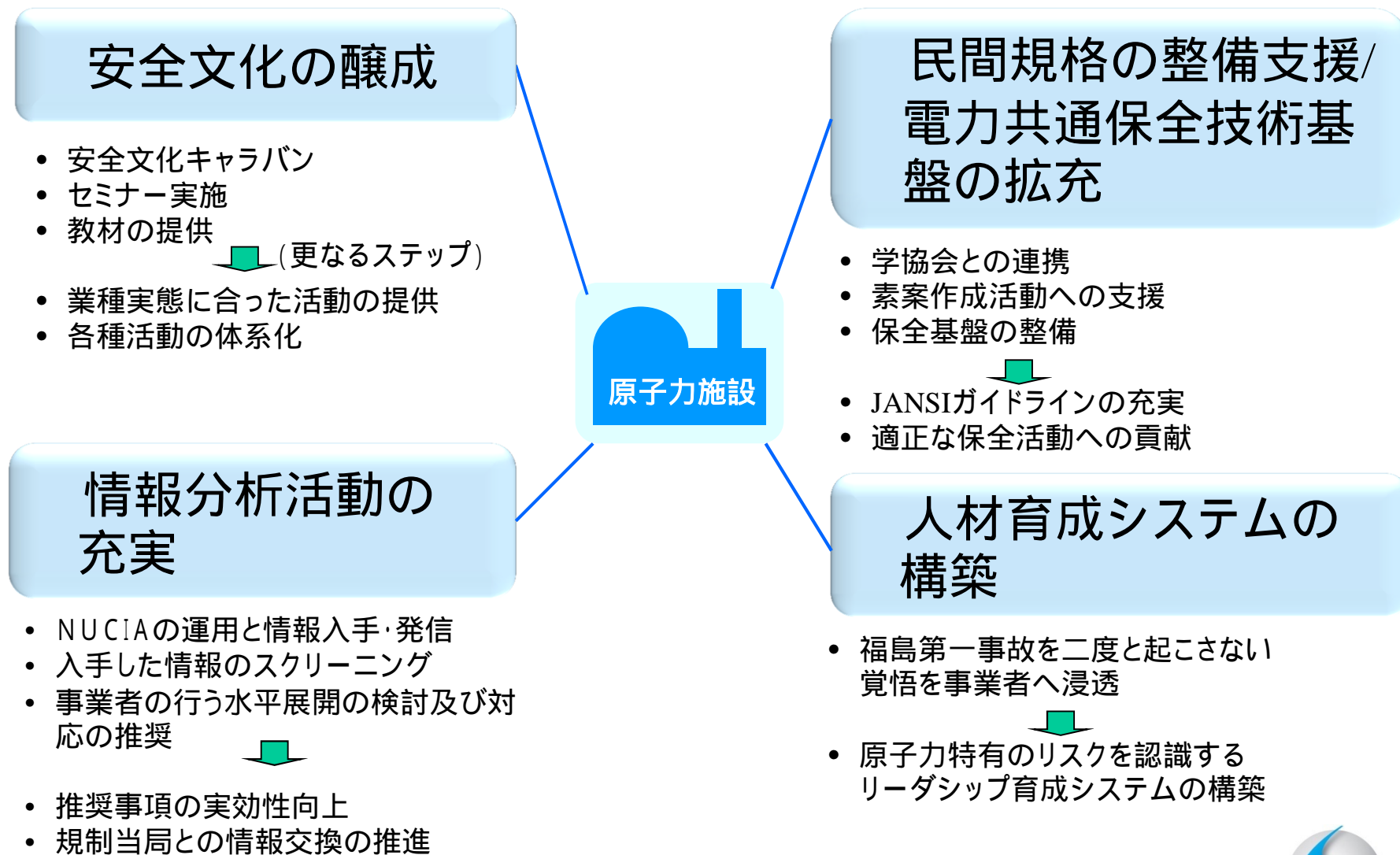
(1) 安全性向上対策の評価と提言・勧告及び支援



(2) 原子力施設の評価と提言・勧告及び支援



(3) 基盤活動



6. 今後の課題

- 具体的成果の蓄積による活動の質的強化
- 海外機関/海外の有識者との連携強化
- 規制当局との適切な関係の構築



参考資料

原子力安全推進協会の概要

関係機関との連携

国際アドバイザー委員会、技術評価グループ

ピアレビューおよび安全文化醸成活動の実績

連絡代表者(SR)による支援

情報分析の処理量と発行文書の数

学協会規格策定支援活動

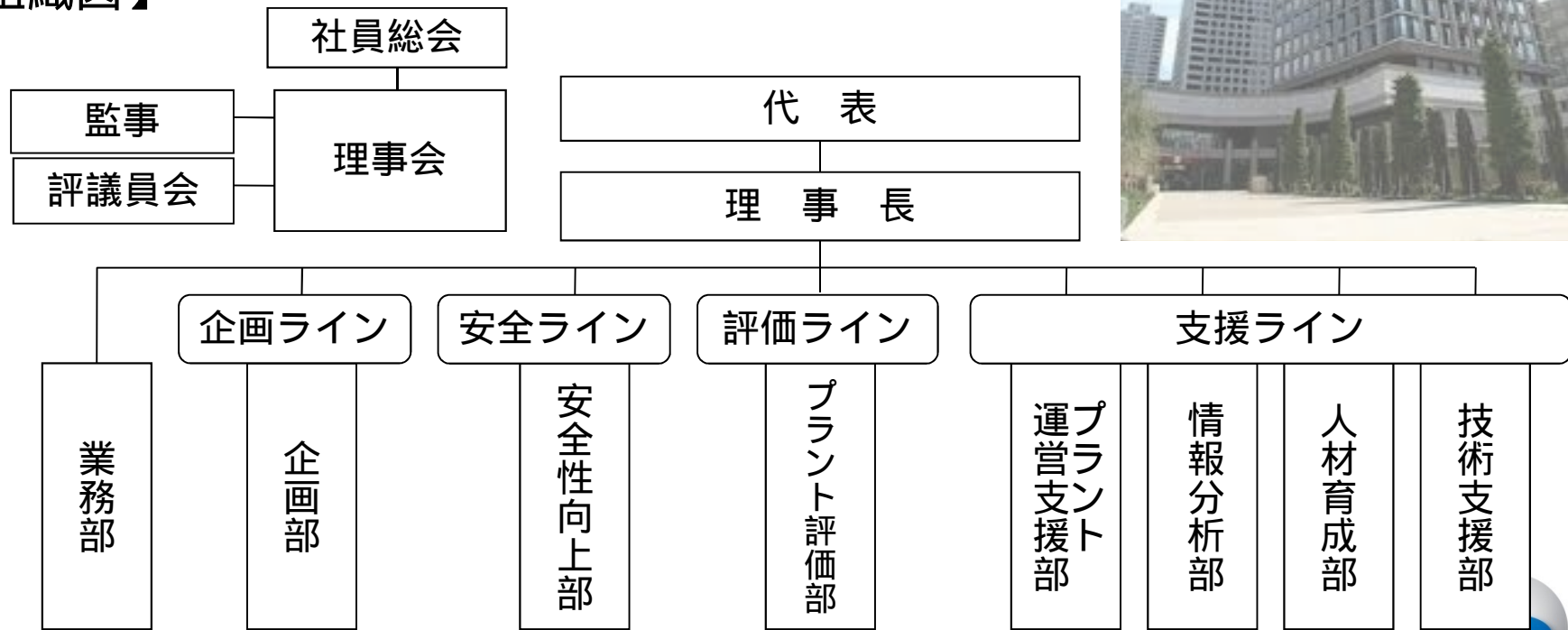
電力共通保全技術基盤の概要

JANSI リーダーシップ研修プログラム



原子力安全推進協会の概要

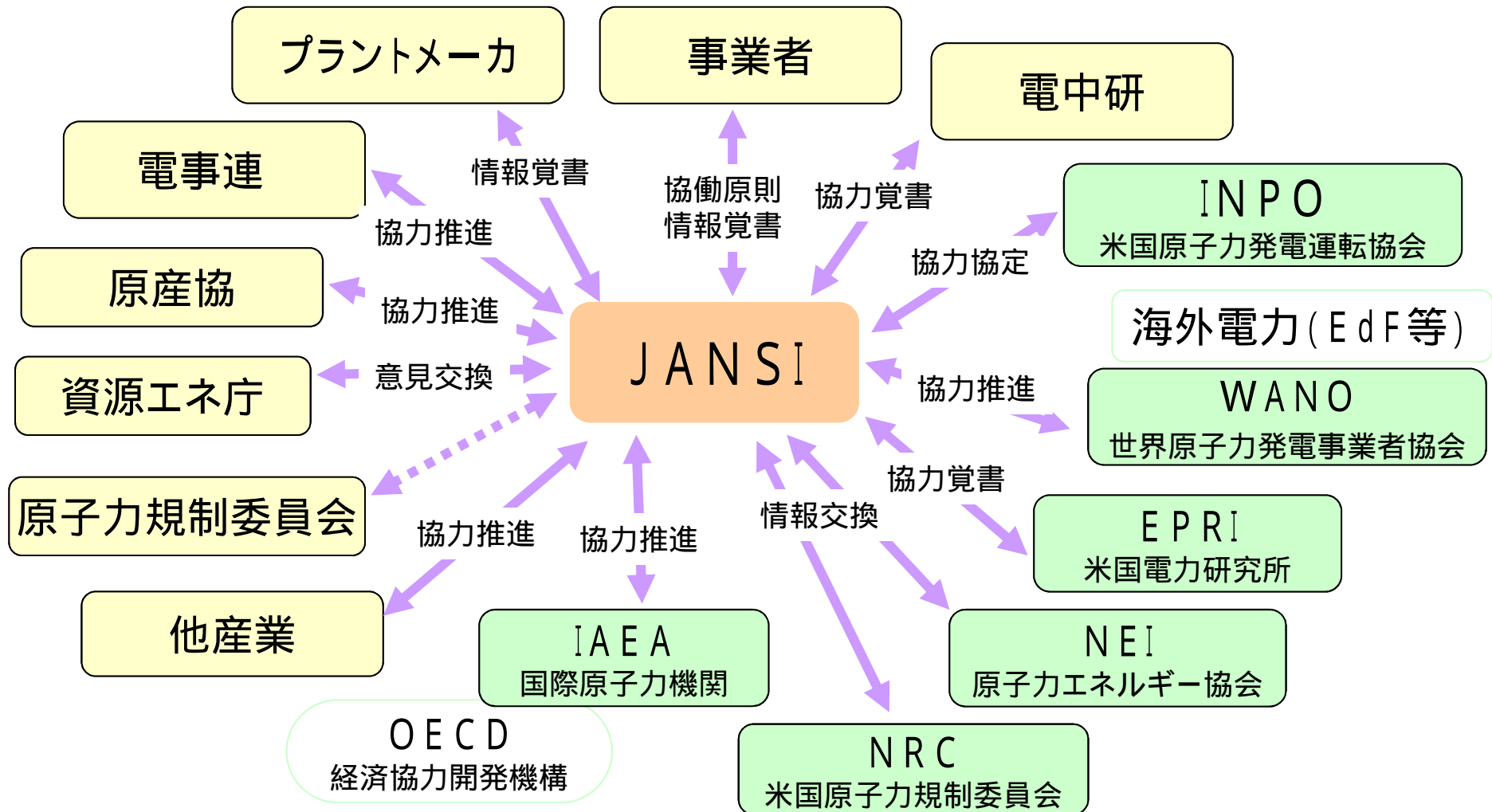
- 【組織名】 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute (JANSI)
- 【所在地】 東京都港区芝5丁目36番7号 三田ベルジュビル13～15階
- 【設立年月日】 2012年11月15日
- 【職員数】 約150人 (2014年2月1日現在)
- 【組織図】



Pursue the world's highest level of safety
~ Untiring Pursuit of the Highest Standards of Excellence ~

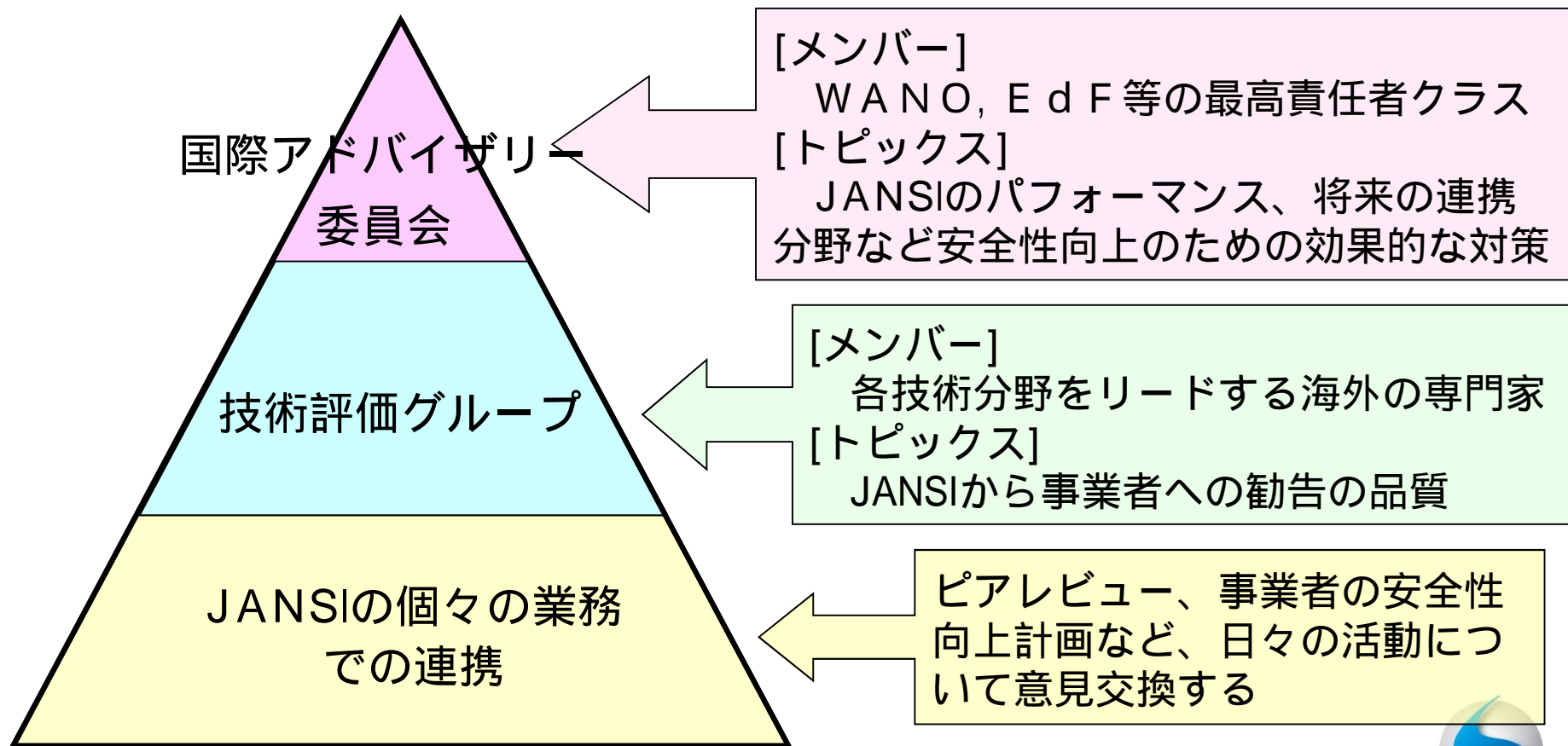
一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute

関係機関との連携



国際アドバイザー委員会、技術評価グループ

経営幹部から実務者レベルの各段階で、海外機関との連携強化を図り、経営全般について意見交換を行うとともに、国際水準に照らした技術的知見の客観性・先端性の向上を図る



Pursue the world's highest level of safety
~ Untiring Pursuit of the Highest Standards of Excellence ~

一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute



VI ピアレビューおよび安全文化醸成活動の実績

	累計(H12.4～H26.3: NSネット、JANTIを含む)	JANSI発足後 (H24.11～H26.3)
ピアレビュー	98回	3回
安全キャラバン	144回	10回
安全文化アセスメント	30回	10回
eラーニング	第1～5弾	第5弾
小冊子	VOL.1～9	VOL.9

eラーニング 第5弾 : 「cha-cha-chaで行こう!モチベーションの向上」

～ 知識から意識へ、そして行動へ～

小冊子 VOL.9 : 「二度とおこさないために！」

安全文化から見た福島第一原子力発電所事故の教訓」



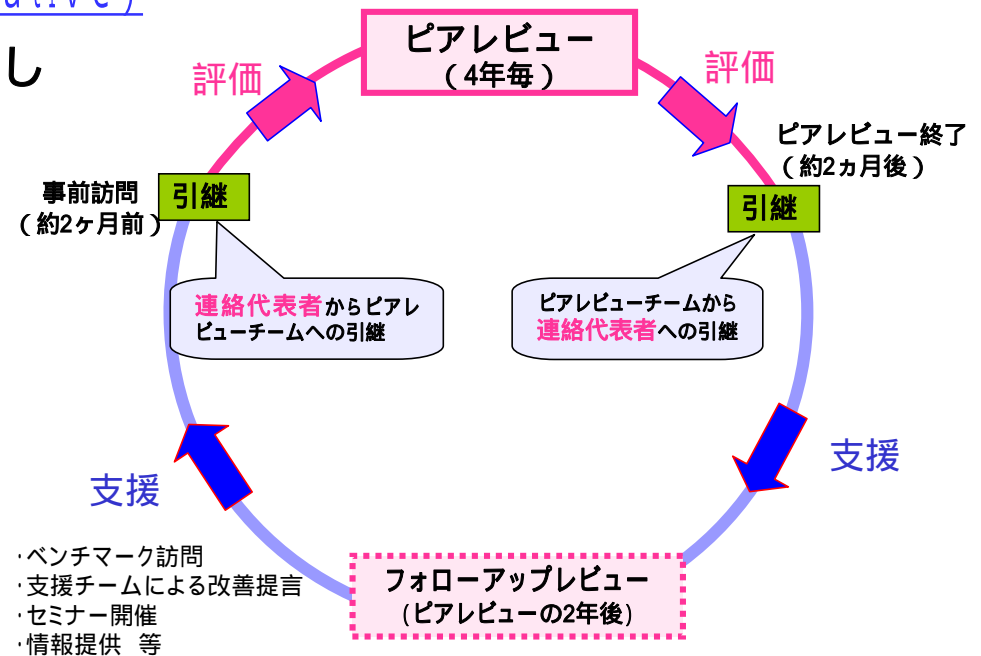
連絡代表者 (SR)による支援

評価と支援のサイクル

ピアレビューによる**評価**に続き、事業者の安全性向上活動に対する **支援**により、事業者の継続的改善を促す。

連絡代表者: SR (Senior Representative)

- ・ 当協会から発電所等への支援の窓口として昨年7月に配置。
- ・ SRは、発電所等への定期的な訪問や連絡により発電所等幹部との緊密なコミュニケーションを図り、現場の運営状況を確認するとともに、現場支援ニーズの抽出等を行った上で当協会からの支援を取り纏め適切な支援を実施。



情報分析の処理量と発行文書の数

< 運転経験情報(OE)処理件数 >

	累計(H17.4～H26.2)	H25年度(～H26.2)
国内情報	2923件	171件
海外情報	29071件	2756件

< 発行文書数 >

* :平成22年度にスクリーニング基準の見直しを行い参考区分を新設

文書の種類		累計 (H17.4～H26.2)	JANSI発足以降 (H24.11以降)
注意	原子力の安全性および信頼性に重要な影響を及ぼす事象に関する文書	1件	0件
提言	原子力の安全性および信頼性に重要な影響を及ぼす可能性のある事象に関する文書	11件	4件
通知	原子力の安全性の観点から検討が必要となる事象ではないが運転継続信頼性等の観点から、水平展開が必要な事象に関する文書	13件	3件
共有*	国内プラントに対し影響評価が必要となる可能性がある事象	2201件	56件
参考*	国内プラントに対する影響評価は必要ないが、各社に参考となる事象	723件	214件

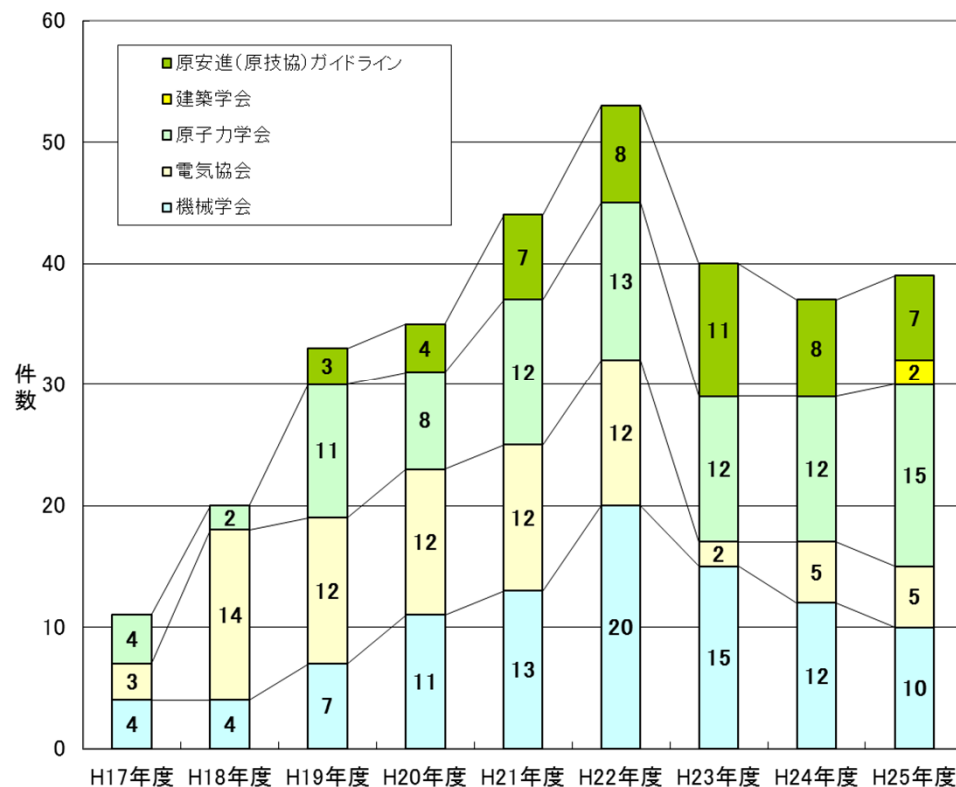
なお、4月から文書の重要度を明確にするため通知、提言といった文書の名称を廃止し、重要度に応じて「重要度- 」、「重要度- 」、「重要度- 」として発出することとしている。



学協会規格策定支援活動

学協会活動への参加・協力により民間規格の整備促進に貢献

原子力施設の安全性・信頼性の向上を図るため、民間規格の重要性は益々増大。民間規格策定の中核をなす学協会は、我が国の研究者、技術者の英知を結集する場であり、学協会の活動に積極的に参加・協力して、学協会規格の整備促進を支援。



- 左のグラフは、「学協会の委員会等に、規格の素案を提案した件数」を示す(原子力安全推進協会の設立(H24年11月)以前は、原子力技術協会における実績)。
- 平成25年度の見込みでは、原子力学会、機械学会、電気協会、建築学会で32件程度。
- その他、当協会の自主ガイドライン(7件)を併記。

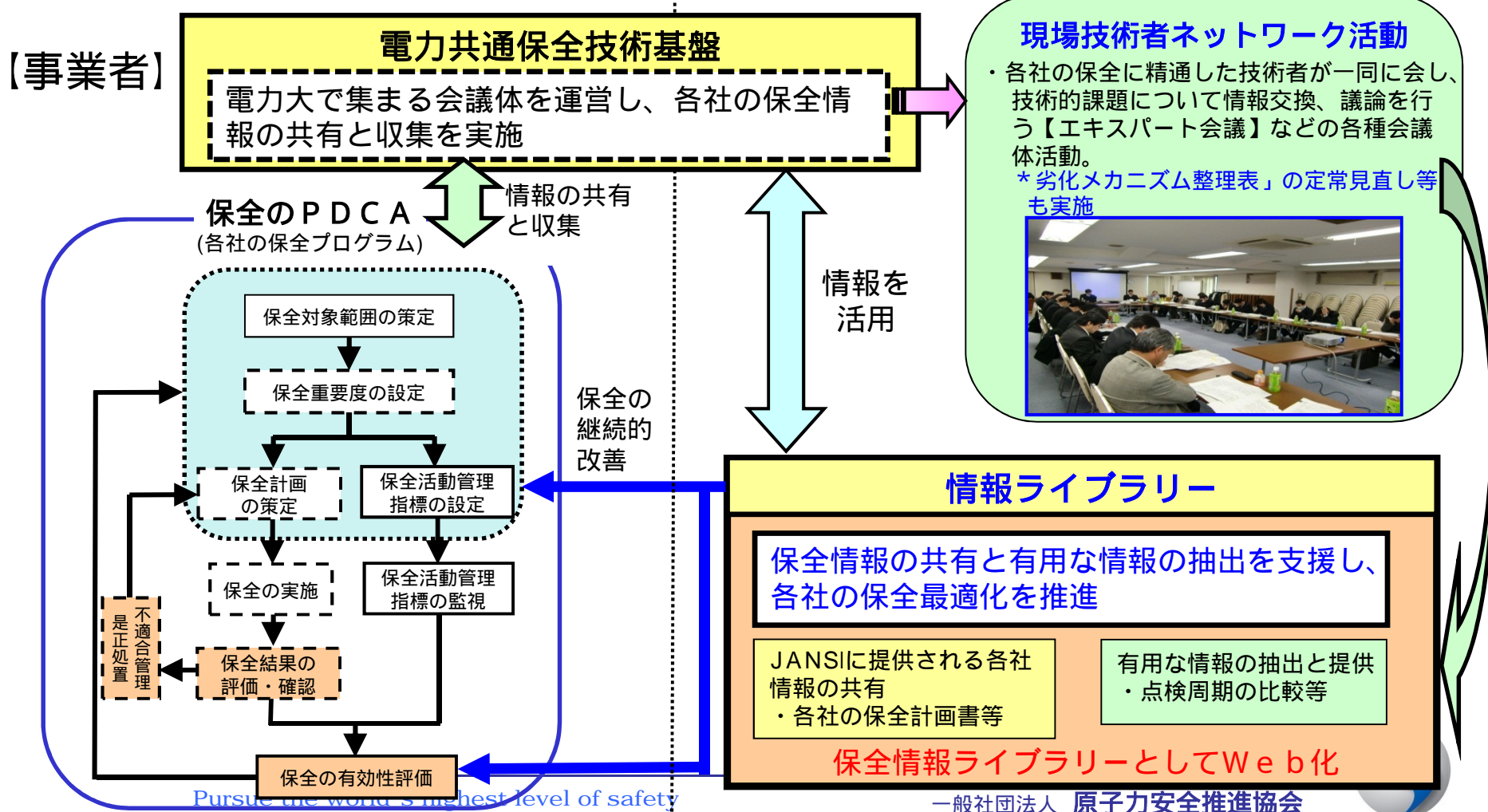
Pursue the world's highest level of safety
~ Untiring Pursuit of the Highest Standards of Excellence ~

一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute



電力共通保全技術基盤の概要

各事業者が保全のPDCAサイクルを円滑に廻して行く上では、**技術情報の共有・交換の場**及び様々な**保全情報を蓄積したノウハウデータベース**が必要であり、当協会では、**電力共通保全技術基盤を構築して支援** 【原子力安全推進協会】

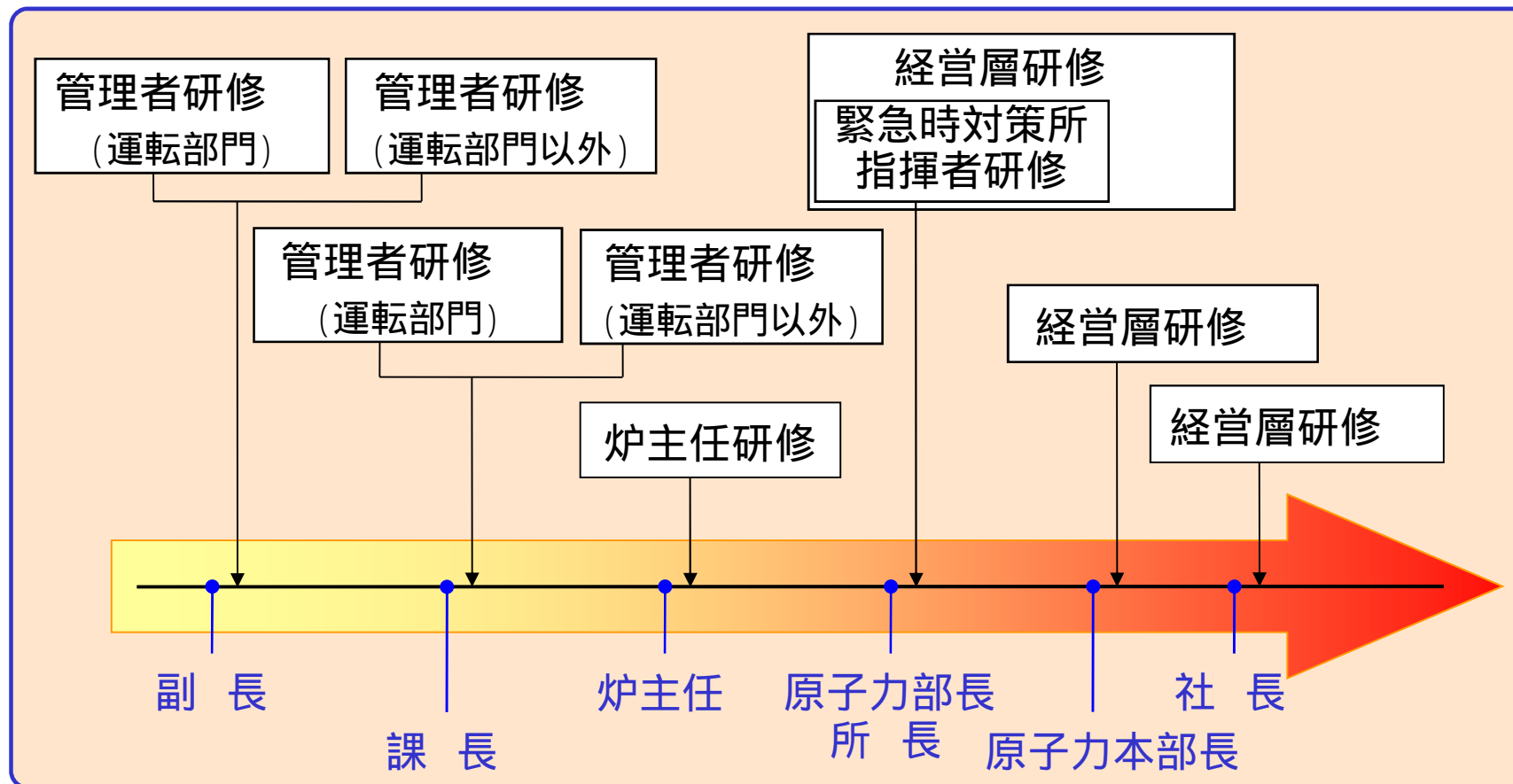


Pursue the world's highest level of safety
~ Untiring Pursuit of the Highest Standards of Excellence ~

一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute

JANSI リーダーシップ研修プログラム

リーダーシップパイプライン研修



個別セミナー

安全文化

RCA

PRA

ピアレビュー

EP/ER

...